

いわき農林水産ニュース



ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

12月号 発行 平成28年12月27日

Premium Iwaki Laiki (プレミアムいわきライキ) 完成発表会及び試食会が開催されました

11月25日(金)、いわきワシントンホテル椿山荘において、「Premium Iwaki Laiki」(※1)完成発表会及び試食会が開催され、生産者をはじめ、米・食味鑑定士協会、JA福島さくら、商工会議所等から76名が参加しました。

これまでいわきのブランド米として、平成26年10月から「Iwaki Laiki」が販売されていますが、一層のブランド力強化を図るため、食味にこだわって栽培している生産者(※2)を厳選し、コシヒカリの粒の大きさ(2mmの篩で選別)やタンパク質含量(6.4%以下)の基準を独自に設け、さらに厳選した「Premium Iwaki Laiki」を発表しました。

試食会では、「Premium Iwaki Laiki」に最適な塩むすびやドリア、リゾットなどが準備され、参加者からは、「粒が大きく、もちりしていて美味しい」「米粒が輝いている」などの意見がありました。

食味と品質にこだわった「Premium Iwaki Laiki」は、いわき市内の量販店やJA直売所で2,000個(2kg)限定販売されていますので、皆様も是非ご賞味下さい!

※1 Laiki(ライキ)とは、「神聖な食べ物である米」を意味するハワイ語です。

※2 米・食味鑑定士協会が認定している「プレミアムライセンスクラブベストファーマー」

(農業振興普及部)



(Premium Iwaki Laikiを披露する
フラガールと「くまんま」)



(金色のパッケージとなった
Premium Iwaki Laiki)

草野小学校「田んぼの学校収穫祭」が開催されました

11月12日（土）、平下神谷地区において、いわき市立草野小学校と連携した「田んぼの学校」で、今年度の活動の締めくくりとなる「収穫祭（成果発表）」を開催しました。田んぼの学校は、県の「ふくしまの農育」推進事業により、地域を担う子どもたちが、農業農村地域の大切さや環境の大切さ、食・命の大切さについて理解することを目的とした体験型学習です。

収穫祭は公開授業と合わせて実施され、5年生は成果発表と餅つきを行いました。成果発表では、この1年間で行った活動を振り返り、地域の方々に学んだことをポスターにまとめ、班ごとに田んぼの生き物や外国産米、農業機械など様々なテーマに着目して発表し、「農業の役割の幅広さに驚いた」などと感想を述べていました。

その後実施された餅つきは、同校で26年間に渡り農業体験学習に取り組んでいるとみおかまさはる富岡正治さんや地元農家・保護者の方々の協力をいただきながら、児童たちは力いっぱい餅をつきました。お昼には全校生徒で、雑煮やきなこ餅にして味わい、児童たちは、「自分たちで作ったお米をおいしいお餅にできたことや、貴重な体験ができて良かったです」と喜んでいました。

当所は、来年度も同校にて「田んぼの学校」を開催し、環境学習を支援してまいります。

（農村整備部）



（みんなで声を合わせて、よいしょっ！）



（お米について学んだことを発表します！）

平成28年度いわきいちご新規作付説明会を開催しました



（説明会の様子）

11月16日（水）、JA福島さくら夏井支店2階研修室を会場に、平成28年度いわきいちご新規作付説明会を開催しました。

この説明会は、近年いわき地方のいちご生産者が減少傾向にある中、伝統あるいちご産地存続のため、新たな担い手の確保と産地維持を目的としたものです。

説明会には新規作付希望者、いわき市、JA福島さくらなど計15名が参加し、農林事務所をはじめ関係機関・団体から生産・販売状況や営農指導・研修体制等について説明がありました。



(現地研修の様子)

その後、夏井地区のほ場で現地研修を行い、いちごの土耕栽培と高設栽培の違い等について、部長より説明を受けました。

参加者からは、営農開始までの初期投資額やほ場設備等について熱心に質問する姿が見られました。

当所では、今後も継続してセミナーや説明会を開催し、いちごをはじめとしたいわき地方の園芸産地の活性化につながる取組を支援していきます。

(農業振興普及部)

平成28年度福島県青年・女性漁業者交流大会が開催されました

12月9日(金)、いわき市の中央台公民館で県内の青年・女性漁業者が日頃の研究活動や実践活動の成果を発表する「福島県青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。今年度はいわき地区から2課題、相双地区から3課題の発表があり、最優秀賞には相馬双葉漁協請戸地区青壮年部が、優秀賞には相馬双葉漁協女性部鹿島支部が輝きました。この2団体は来年3月に開催される全国青年・女性漁業者交流大会に出場します。

今年は惜しくもいわき地区からの全国大会への出場はかないませんでした。他地区の取組についての情報交換により、今後の活動の刺激になることが期待されます。

(水産事務所)

発表課題一覧

No.	発表課題	研究グループ	発表者
①	勿来産イワガキのブランド化に向けて	いわき市漁業協同組合 勿来支所青壮年部	高木 完昇
②	やがまし姫はツブそろい、食ってみっせ！かしまの一品 ～女性部鹿島支部による6次化商品開発の取組～	相馬双葉漁業協同組合女性部 鹿島支部	北元 浩子
③	四倉ホッキ組合復活のために ～四倉産ホッキの高付加価値化に向けた取組～	いわき市漁業協同組合 四倉支所四倉ホッキ組合	佐藤 芳紀
④	相馬魚食文化の伝承 ～語り継ぐ「浜の母ちゃん飯」～	相馬双葉漁業協同組合女性部 相馬原釜支部	佐藤 靖子
⑤	魚よし手間なし鮮度よし ～庭建網精鋭部隊で請戸の未来を守れ！～	相馬双葉漁業協同組合 請戸地区青壮年部	鎌田 寛典



(課題発表の様子(請戸青壮年部))



(発表者による記念撮影)

いわき地区生活研究グループ連絡協議会の視察研修会が開催されました

11月25日（金）、「農業女子交流ツアー」と題しいわき地区生活研究グループ連絡協議会主催の視察研修会が南会津地方において実施され、26名が参加しました。子育て世代の農業女子を中心に活躍する「ただみ農家の嫁倶楽部」の取組や南会津地方独自の郷土食・伝統食などを学ぶとともに、会員及びいわき地方農業女子の交流促進が目的です。

研修会においては、嫁倶楽部の5名から開発した加工品や、イベントへの出店、郷土料理などの紹介を受け、また、昼食を兼ねた女子会で相互の交流を深めていました。その他に、米焼酎の紹介や直売所の視察などもあり充実した研修会となりました。

参加者からは、「こんなに多くの若い女性が活発に活動していることに刺激を受けた」、「自分のお嫁さんもこういう場に出させてあげたい」などの声を聞くことができました。

（農業振興普及部）



（熱心に話を聞く参加者）



（取組を紹介する嫁倶楽部会員）

「地域復興実用化開発等促進事業」説明会を開催しました



（説明会の様子）

11月29日（火）、県いわき合同庁舎会議室において、県商工労働部産業創出課の担当者を招き、農林・商工関係事業者を対象に「地域復興実用化開発等促進事業」説明会を開催しました。

この事業は、イノベーション・コースト構想の重点分野で、地元企業等が行う地域復興に寄与する実用化開発の費用を補助するもので、今年度からスタートしています。

重点分野の1つである農林水産業分野においては、今年度、管内から4件の事業計画が採択され



(質疑応答の様子)

ていますが、ロボットや環境リサイクルの分野と比較すると、農林水産業分野における管内からの採択は少なかったことから、次年度以降、管内の農林水産業等関係事業者のこの事業への更なる取組が図られるよう、県商工労働部産業創出課の協力を得ていわき農林事務所が開催したものです。

現時点ではH29年度の予算や公募スケジュール等は固まっていない状況ですが、今後、予算等が固まれば、関係事業者がスムーズに事業構築に向け、準備を進めることができるよう、説明会ではH28

年度ベースでの制度や事業の概要、具体的な採択事例等を紹介しました。参加者からは、複数年計画による提案の是非や対象経費の取扱いなど、事務処理に関する活発な質疑応答がなされ、事業に対する関心の高さがうかがえました。

この説明会が参加者にとって事業構築のヒントとなり、制度の利用促進が図られ、浜通り地域の産業復興につながることを期待されます。

(企画部)

福島県漁業調査取締船「あづま」就航式を開催しました

12月2日(金)、いわき市の小名浜魚市場前において、県漁業調査取締船「あづま」の就航式を開催しました。内堀知事を含む約50名の県・漁業関係者が参集し、テープカットの後、エアホーンを鳴らして離岸する「あづま」の就航を祝いました。

「あづま」は、山口県の三菱重工業(株)下関造船所で建造され、昭和36年5月就航の初代以来、現在は5代目となります。総トン数は59トン、船質はアルミ軽合金製で、定員8名、最大速度は32ノットです。「あづま」は、漁業秩序の維持安定のための漁業取締・指導、原子力災害による風評の払拭に向けた海洋観測・漁場環境調査に活躍してまいります。(水産事務所)



(テープカットの様子)



(「あづま」就航の様子)

「林業活性化講演会」が開催されました



(講演会の様子)

12月5日(月)、いわきワシントンホテル椿山荘において、磐城流域いわき地区林業活性化センター主催により、「林業活性化講演会」が開催されました。

今回は、森林や木材を対象にした認証である「森林認証制度※」をテーマに、NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク事務局長の松澤瞬氏と物林株式会社建設副本部長・特建事業部長の金川晃氏を講師に迎え、松澤氏から「森林認証取得までの経緯

と今後の活動について」、金川氏からは「木材の利用、流通から見た森林認証と将来の展望について」と題して講演があり、当日は、林業・木材産業関係者など約50名が参加しました。

近年オリンピック・パラリンピックの施設整備に使用する木材は、環境に配慮した森林から伐採された森林認証材であることが基準とされているため、森林認証制度が注目されておりますが、県内では森林認証を取得した森林はまだまだ少ないのが現状です。

松澤氏からは、「南会津の豊富な森林資源に付加価値を付けるため、森林認証を取得した経緯」について、金川氏からは「環境保護や森林保全につながる森林認証材住宅の推進による社会貢献」などについて話がありました。

参加者からは、「東京オリンピックのためだけでなく、将来の森林のためにも森林認証を取得し、森林資源を次世代につないでいく必要がある」などの意見があり、今後のいわき地方の林業活性化につながることを期待されています。

(森林林業部)

※ 適切な管理・経営が行われている森林を認証し、その森林を源とする産物にラベルを付与することで、消費者に持続可能性に配慮した木材等を選んで買う機会を提供する仕組み。

建設工事安全推進協議会安全パトロールを実施しました



(安全掲示板を確認する参加者)

12月7日(水)、いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会主催による工事現場安全パトロールが行われ、いわき労働基準監督署や県関係機関、建設会社等の関係者32名が参加しました。

会長の森口いわき農林事務所長より出発式の挨拶後、2班に分かれ、それぞれ3箇所のパトロールを行いました。

パトロール終了後は、現場ごとの指摘事項などをとりまとめ、発表した後、労働基準監督署の後



(現場確認状況とりまとめの様子)

藤安全衛生課長と谷労働基準監督官から講評をいただきました。

現場における改善点は、「ブレーカ掘削作業時の保護具着用」、「安全掲示板への地山掘削作業主任者の表示」などが挙げられました。

また、講評の中では「高低差がある作業エリアには頑丈な鋼管等を設置する」、「擁壁上の作業時には転落防止対策を行う」など参考となるものが多くあり、参加者はさらなる安全衛生管理の徹底と労働災害の未然防止に向けた意識向上を図りました。

(総務部)

平成28年度地域特産品創出事業 第1回クラスター分科会を開催しました

12月8日(木)、県いわき合同庁舎において、「平成28年度地域特産品創出事業 第1回クラスター分科会」を開催しました。

この事業は、いわき地域の豊かな農産資源を生かし、地域の力を発揮しながら1次・2次・3次産業が様々な形で融合した新たな地域産業を創出し、いわき地域の活性化を図るため、“地域ならではの”のコンセプトのもと、新たな商品の開発・販売を目的としています。

今回は、ねぎを使った商品を開発するため、市内の生産者、製造・販売事業者、いわき農林事務所など9名が参加し、ねぎの新商品開発のための意見交換や加工品の試食を行いました。

参加者からは、「今回の事業を通して、生産者の方と連携を深めていけたらと思う」、「ねぎを単独で使用するのではなく、他の素材も混ぜて美味しい商品を作りたい」といった意見がありました。

今後は、製造・販売業者等と連携を取りながら新商品の開発を進めてまいります。

(企画部)



(分科会の様子)



(事務局による説明)

平成28年度JGAP模擬審査会を開催しました

11月17日（木）、本年度より新たにJGAP（日本版ギャップ）認証の取得に取り組む生産者を対象に、北海道GAP認証センター審査員を講師として模擬審査会を開催しました。

GAP認証とは、安全な農産物の生産・環境の保全・作業者の安全などに取り組んでいる農場に与えられる認証です。GAP認証は、安全性の高い農産物を生産できる農場の目印となることから、信頼できる農場としてアピールすることができます。

JGAPは、一般財団法人日本GAP協会が基準を定めて認証する制度であり、農林水産省が導入を推奨するGAP認証の1つです。

模擬審査会では、水耕トマトや菌床シイタケの生産現場において、認証センター審査員から管理項目と生産工程について審査を受けました。参加者からは基準の文書化が大変といった意見などもありましたが、審査員からは文章だけ（もしくは文字だけ）ではなく図表やフローを示すなど、状況に応じて工夫するなど、適切なアドバイスをいただき、有意義な模擬審査会となりました。

いわき農林事務所では、東京オリンピック・パラリンピックへの食材提供や輸出等も見据え、今後もJGAPなど、世界基準の安全性を確保するための取組を積極的に支援していきます。

（農業振興普及部）



（現地点検の様子）



（作業現場での指導状況）

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果について

□農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の11月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果をお知らせします。

検査した10品目33検体すべてにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表1)のとおりです。

11月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表2)のとおりです。

(企画部)

(表1) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

ホウレンソウ1、ネギ3、ハクサイ1、ユズ1、ダイコン1、菌床しいたけ(施設)6 菌床なめこ(施設)2、大豆7、牛肉7、原乳4

(表2) 出荷制限および出荷自粛品目(11月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
畜産物	—	
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

□平成28年産米の全量全袋検査結果

平成28年産米の全量全袋検査は、11月までの検査点数472,745点のうち、99.99%の472,681点が測定機器の測定下限値未満、64点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありませんでした。

(表) 玄米(平成28年産)検査状況(11月末現在)

測定値区分 (単位: Bq/kg)	測定下限値 未満(<25)	25 ~ 50	51 ~ 75	76 ~ 100	100 以上	計
検査点数(点)	472,681	64	0	0	0	472,745
割合(%)	99.99	0.01	0.00	0.00	0.00	100.00

(12月1日付け 「ふくしまの恵み安全対策協議会」HPにより確認)

調査結果は、「ふくしまの恵み安全対策協議会」放射性物質検査情報で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(企画部)

□海産魚介類の検査結果

福島県沖（全県）で採取された海産魚介類の放射性セシウム濃度は、時間の経過とともに着実に低下しています。

平成28年11月の水産物モニタリング検査では、825検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

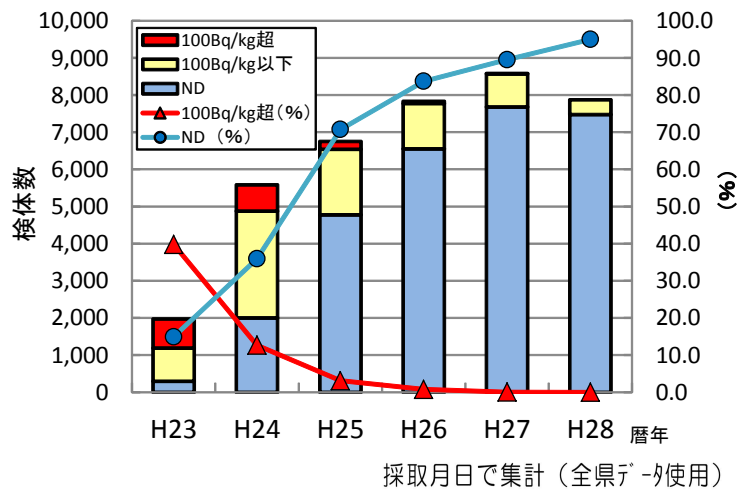
海産魚介類では平成27年4月以降、全県で基準値を超えたものではありません。平成27年7月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの不検出割合が9割を超え、平成28年11月末では不検出割合が95.0%となっています。

（水産事務所）

（表・グラフ）平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合（％）	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合（％）	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合（％）	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合（％）	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合（％）	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	395	7,476	7,871
	割合（％）	0.00	5.0	95.0	100.0

H28.11.30現在



□試験操業の状況

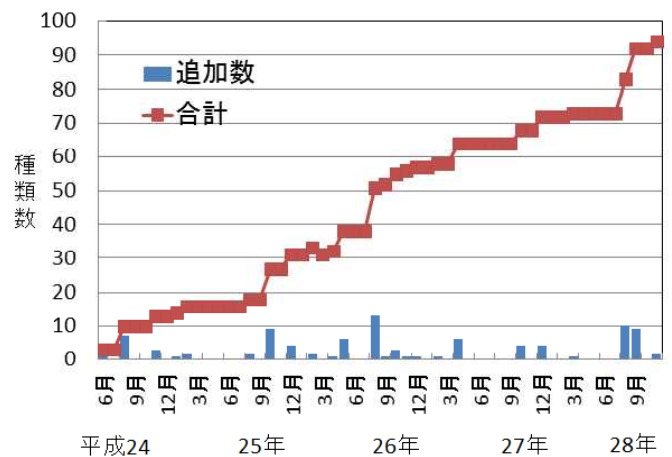
試験対象種は、11月29日（火）に開催された県下漁業協同組合長会議で、新たにババガレイ^{注1}とアカカマス^{注2}の追加が承認され、全94種類となりました。

なお、依然として15種類の魚介類に出荷制限指示が出されています。

注1：ババガレイは平成28年11月14日（月）に出荷制限指示が解除されました。

注2：アカカマスは出荷制限指示を受けておりませんでした。

（グラフ）試験操業対象種の推移



（水産事務所）

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に
掲載された6次化商品をご紹介します



【お問い合わせ】
福島さくら農業協同組合
●いわき市自由ヶ丘39-2 ●TEL:0246-26-9165
●WEB:<http://www.ja-town.com/shop/g/g2501-2207/>

今回は“ふくしま地域産業6次化新商品カタログ”
(平成28年3月版)に掲載されている商品の中から
福島さくら農業協同組合の「ねぎドレッシング」をご
紹介します。

「ねぎドレッシング」は、太陽の恵みをたっぷり受
けて育った甘みの多いいわきねぎを使用したドレッシ
ングです。

福島さくら農業協同組合では、震災以降、風評被害の
影響による市場価格の下落、また生産者の生産意欲が減
退している現状を打破するため、地域ブランドとしてい
わきねぎの再構築を図り、いわきねぎを使用したオリジ
ナル商品「ねぎドレッシング」の開発に取り組みました。

味のポイントはねぎの含有量で、多すぎても食感が悪くなり、少なくとも風味が不足します。こ
のため、最適なバランスとなるよう試行錯誤を繰り返したそうです。

「ねぎドレッシング」は、新鮮やさい館の谷川瀬店、平窪店、好間店やファーマーズマーケット
いがっぺのほか、インターネットでもお買い求めいただけます。是非ご賞味下さい。



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース